



報 館
 玄洋127号
 平成29年4月1日
 発行
 一般社団法人
 玄洋社記念館
 郵便番号 810-0062
 福岡市中央区荒戸三丁目
 6番36号
 西公園ハイツ201号
 電話 (092) 762-2511
 FAX (092) 762-2502

頭山翁「鉱業権」取得の強力な支援者

矢野喜平次氏の資料を寄贈

手紙、書類など親族が嘉麻市に

玄洋社の総帥、頭山満翁が、活動資金調達のため日本有数の産炭地、福岡県・筑豊地方で炭鉱業に進出したことはよく知られている。その頭山翁の炭鉱業進出を強力に支援したのが筑豊の一角、旧、福岡県嘉麻郡大隈町（現、嘉麻市大隈町）の酒造業、矢野喜平次氏だった。矢野家に伝わっていた頭山翁からの書簡や鉱業権（当時の法律で「借区」と呼ばれた）取得に関する書類など、矢野氏の支援ぶりを物語る貴重な資料が、先ごろ同市に寄贈された。

頭山翁に炭鉱業を勧めたのは政界の黒幕といわれた杉山茂丸だった。明治二十一年ごろのことといわれている。そして鉱業権取得のための資金を矢野氏が提供し、かつ、鉱業権買収に際しての地

玄洋社憲則

第一条 皇室ヲ敬戴ス可シ
 第二条 本国ヲ愛重ス可シ
 第三条 人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容

- ▽野村望東尼百五十年忌祭で記念碑建立 2面
- ▽廣田弘毅先生顕彰会日程決まる 3面
- ▽平成29年度賛助会費納入のお願い 3面
- ▽賛助会員芳名録 3面

嘉麻郡、隣接の穂波郡で次々に鉱業権を取得。さらに隣の田川郡へも進出し、合計二百五十五万坪の「坑区」を取得したという。

頭山翁が石炭採掘をした



頭山翁から喜平次氏に宛てた手紙を披露する生前の矢野喜平次氏（寒北斗酒造所蔵）

わけではない。権利の売却で活動資金を調達していた。

矢野氏は天保二年（一八四一）に生まれ明治四十二年（一九〇九）に亡くなった。「明治二〇年の福岡県一円富豪一覧表によれば、資産は当時筑豊の首位にランクされている」（永末十四雄著「筑豊讃歌」という人。玄洋社の社員ではないが、頭山翁を支援したのは、頭山翁と玄洋社の活動に

強い共感を覚えたからの

矢野家の酒造業は享保十四年（一七二九）の創業で商号は「玉の井酒造」。平成二十三年十月「寒北斗酒造」に変わった。

矢野家には、頭山翁から矢野氏に宛てた資金要請の手紙や電報、「借区

矢野家の創設は慶長四年（一六一三）といわれる。今に残る江戸末期の母屋、同期に建てられた蔵、昭和初期に建てられた現在も使われている酒蔵の三棟は国登録有形文化財に指定されている。これらの図面なども含めて小型のプラスチック製コンテナで五、六個分。寄贈を受けた同市は、分類、整理して町の歴史を読み解きたい、という。



見学者も多い寒北斗酒造

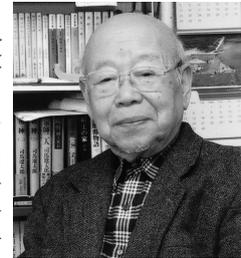
矢野家の創設は慶長四年（一六一三）といわれる。今に残る江戸末期の母屋、同期に建てられた蔵、昭和初期に建てられた現在も使われている酒蔵の三棟は国登録有形文化財に指定されている。これらの図面なども含めて小型のプラスチック製コンテナで五、六個分。寄贈を受けた同市は、分類、整理して町の歴史を読み解きたい、という。

野村望東尼150年忌

「山莊」に記念碑建立

地域住民が募金に協力

幕末、福岡の勤皇歌人、野村望東尼の顕彰活動をする地域団体「平尾望東会」は、昨年、望東尼が晩年を過ごした福岡市中央区平尾五丁目の草庵「平尾山莊」に望東尼の「百五十年忌祭記念碑」を建立した。「地域の歴史伝承活動に協力を」という同会の寄付の呼びかけに、地域の人々は力強く応えた。



志間 久宣会長

同会は、毎年、望東尼の命日の十一月六日に平尾山莊で慰霊・顕彰の「望東尼祭」を行っている。昨年の命日は百五十年忌に当たり、この日、年忌祭と併せて記念碑の除幕式が行われた。地域の住民など約三百人が参列して記念碑の完成を祝い、望東尼の遺徳をしのんだ。

百五十年忌の記念事業

志間会長はじめ世話人が、長州藩の勤皇の志士、高杉晋作の祭典に出席したのがきっかけで、望東尼と高杉晋作の交流を表す記念碑の建立に決まった。九州造形短大、小田部黄太教授の設計、制作による記念碑は高さ約百五十センチ、幅約百八十センチ。長州を追われて平尾山莊に十日間滞在し、再び長州へ戻る高杉晋作に望東尼が手縫いの着物と、はなむけの和歌を贈る場面を描いたレリーフがはめ込まれ、望東尼の和歌、解



建立された百五十年忌記念碑＝左のかやぶき屋根が平尾山莊

説文が刻まれている。同会は、記念碑建立の費用、約五百万円を地域の住民から募った。個人一口千円、法人一口一万円。平尾校区約一万二千円。全世帯に趣意書を配った。反応は好意的だった。平尾公民館内の同会事務局を訪ねてきた年配の男性は、現金で百万円を差し出し「老妻といつも公園を散歩して元気をもらっている。感謝の印です」とだけいって立ち去った。また、ご主人は一

万円、家族は一人千円ずつ、というほほえましい寄付もあつた。企業の協力もあつた。二百七十四人・社。寄付者の氏名はすべて記念碑の裏に刻まれている。マンションも増えた平尾校区には、新しい住民も多い。志間会長は「静かな環境」だけで満足していた人たちが、平尾の生い立ちを知って「愛着」を感じている。歴史の伝承は、まちづくりにも大切なことだ」

筑前風濤録

頭山満と玄洋社

柳 猛直

〈11〉

題字は進藤一馬福岡市長

試練の時代

当時、福岡西新町の福岡藩馬廻役・筒井亀策（ついで・かめさく）の三男・乙次郎（のちの頭山満）も、この桜田義士伝を聞いて感激している。

「おれは子供の折から記憶がよかつた。四歳くらいのことまで未だに覚えておる。おれは安政二年の生まれで、あの水戸の十七烈士が井伊掃部を斬つたのは、おれの六歳の時だ。それで七歳の時には福岡でも桜田義士の講談なんどをやつていた。黒山篤丈という日本一の講談師で、以前は神官で少しは学問もあり、やや世道を解している奴で、なかなか上手じゃつた。その時おれは七つで一番の兄さんは四つ違いの十一じゃつた。おれの住居は西新町の中東で、次が中西、その次が大西で一町ほど隔たつていた。大西という所の呉服屋、これは立派な新築をして呉服なども、なかなか立派に飾つていた。その家で講談を聴いていたので一層感じた。おれも大きくなつたら、この義士のようなことをやろうと思つたものだ。帰つてくると、お父さんも兄も義士の名をよう覚えて居らなんだ。それをおれがスツクリ覚え、関鉄之助、齋藤監物、蓮田市五郎など逐一読み上げて内の者どもに話して聞かせたからだれも彼もびつくりした。すると近所の者も珍しがって聴きに来たものだ」

（この項続く）

「廣田弘毅先生顕彰祭」

今年5月20日に斎行

極東国際軍事裁判で、文官でただ一人、A級戦犯の罪に問われ刑死した悲運の宰相、廣田弘毅先生のご遺徳を顕彰する「廣田弘毅先生顕彰祭」を、今年5月20日(土曜日)午前11時から斎行します。一般社団法人玄洋社記念館の主催です。

場所は福岡市城内5(福岡市美術館入り口)の廣田先生の銅像前で、(雨天の際は銅像向かい側、福岡県護国神社の参集殿です)

参加費は千円。詳細は玄洋社記念館(電話092・762・2511)へお問い合わせください。

福岡だより

「日本一」のおたふく面

博多の総鎮守、櫛田神社(福岡市博多区上川端



「福」を求めて、おたふく面をくぐる参詣客

平成29年度

会費納入のお願い

玄洋社記念館賛助会員の皆様には、日ごろから当記念館の諸事業にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

要領は次のとおりです。

【賛助会費の額】

▽個人会員Ⅱ 一口一万円

▽法人・団体会員Ⅱ 一口三万円

納入は郵便振込または銀行振込でお願い致します。振込先は次のとおりです。

【郵便振込】口座番号017701120738

【銀行振込】西日本シティ銀行赤坂門支店 普通預金 口座番号0740047

宛名はいずれも「玄洋社記念館」です。

一般社団法人 玄洋社記念館

町)には節分を挟んでその前後二十日間くらい、楼門前に紙貼りの「おたふく面」が登場する。高さ五・三メートル、幅五メートルは日本一だとか。

面を設置するようになつて半世紀。今年も訪れた家族連れなどが「福」を求めて大きな口をくぐる姿が絶えなかった。

賛助会員芳名録

(1月20日現在、敬称略)

法人・団体の部

【三万円】

ジーアンドエス・エンジニアリング(株) (福岡市)

個人の部

【十万円】

松岡 武美 (姫路市)

【二万円】

柴田 繁一 (福岡市)

【一万円】

石塚 泉 (館林市)

永島 英也 (福岡市)

渡邊 一馬 (別府市)

川辺 俊幸 (福岡市)

浅野 秀夫 (同)

皆川 明彦(さいたま市)

占部 紀行 (福津市)

山座 和基 (福岡市)

建設コンサルタンツ
建設事業の計画・調査・設計・施工管理

ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社

代表取締役会長 花田 勲
代表取締役社長 児玉 和久

本社 福岡市博多区東比恵三丁目二四一-九
〒八二・〇〇七 電話 092・48113100

東京支社 東京都杉並区高円寺南一丁目三三-一
〒一六六・〇〇三 電話 (03) 537815800

営業所 千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

福岡鮮魚市場のコア企業!! 21世紀の水産業界を領導するアキラグループ

◇鮮魚仲卸業◇

株式会社 アキラ水産

代表取締役社長 安部 泰宏

本 社 福岡市中央区長浜3丁目11-311
電話 092171116601(代表)

関連会社/株式会社コウトク水産

株式会社 オー・エー企画

代表取締役 入江 秀雄

810-004 福岡市中央区渡辺通2丁目1-182
TEL (092) 711182880
電気ビル本館地下1階
FAX (092) 711182883

造園・緑化 自然とコミュニケーション

株式会社 別府梢風園

代表取締役社長 別府 壽信

本社 〒835 福岡市東区青葉一丁目六一-五三
TEL 〇九二一六九一〇六七八
FAX 〇九二一六九一四五五四
E-mail: info@shouhouen.co.jp



(財)日本医療機能評価機構認定

開放型病院・臨床研修指定病院

原土井病院

HARADOI HOSPITAL

〒813-8588 福岡市東区青葉6丁目40番8号
☎092-691-3881(代)
http://www.haradoi-hospital.com/

理事長 原 寛

玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第69回

同時代から見た頭山満

⑬

―書と人物―

久留米市に講演に出向いた帰途、市内の発心公園と朝倉市杷木町原鶴を訪ねた。共に頭山満書の記念碑が残されている。しかもどちらも戦後の建立だったのには驚かされた。頭山満の死後に建てられたことになる。

発心公園は久留米市草野町草野、JR久大本線の筑後草野駅の南、山間に少し入り込んだところにある。筑後平野を一望する要衝で、戦国武将草野氏の居城発心城の城跡である。麓には草野歴史資料館があり、界限は江戸時代の宿場町の面影を残している。

頭山満書「洪疇武田範之和尚碑」は師岡司加幸さんに教えられた。

「師名ハ範之武田氏道



之序論―天佑侠の位相」『福岡地方史研究』五四号、二〇一六年九月）

意識すると、「先生の名前は武田範之（一八六三―一九一一）」という。出家後の名は洪疇で、久留米藩勤王の士の沢之高の第三子に当たる。之高は曠達（心が広く物事にこだわらないこと）の人

号ハ洪疇本姓ハ沢父ハ之高米藩勤王ノ士天資曠達以テ大イニ聞コユ師ハ其第三子年甫メテ十一出デテ父執武田貞斎ニ養ハル。これは発心山麓（現久留米市草野町）にある公園の中に建てられた（洪疇武田範之和尚碑）の、左横の別碑に刻まれた碑誌文である。撰文は大庭陸太であるが、和尚碑は頭山満の揮毫によっている。（師岡「武田範

としてよく知られていた。範之は数えの十一歳の時、武田貞斎の養子となった。」となる。師岡さんによると、武田貞斎は草野の医師でやはり勤王派の一員であったという。範之は幼くして医師としての道を歩むことを止め、読書に耽り、放浪の後に越後の顕聖寺（曹洞宗）の僧となった。

頭山満との縁が生じるのは朝鮮東学党の乱に投



じた日本人グループ・天佑侠に加わったことによる。「武田範之は旧久留米藩士の子。越後顕聖寺の学僧になったが、明治二十七年の天佑侠に参加して当時三十二歳ながら『謀師』として重きをなしたという奇才あふれる人物である。天佑侠十四人の中では、武田範之と鈴木天眼（福島県出身）、大原義剛と内田良平の四人が玄洋社の同人であったという。」（石瀧『玄洋社・封印された実像』）

写真①では中央に「洪疇武田範之和尚碑」（昭和廿九年十月廿三日建之）があり、左の碑に碑文と寄附者名が彫られて

いる。先頭に旧藩主家の有馬頼寧、三番目以下に石井光次郎・緒方竹虎・野田俊作・稲富稜人・橋渡ら政治家の名が続く。一三番目が石橋正二郎。一八番目はよく見えないが真藤慎太郎のようだ。緒方・真藤は玄洋社員だった人たちである。頭山の生前に建碑の企図があつたが、戦中のことであり、戦後しばらくして実現したのであろう。

写真②は頭山満の部分。

原鶴温泉街の二画、泰泉閣に近い小さな緑地に「原鶴古戦場」の説明板

が立っている。緑地の中央の「初代梅ヶ谷藤太郎之碑」が立雲頭山満の書になる（写真③④）。署名の下にあるべき二つの印が碑面の右下に配置されているのが異例だが、左右のバランスを考えると、紙面を切り離して彫り込んだのだろうと推測される。裏面には「昭和三十四年十一月吉日再建 日本相撲協会」と書かれているので、何らかの理由で元の碑が失われて戦後再建されたものらしい。

初代梅ヶ谷藤太郎（一八四五―一九二八）は朝倉市杷木志波の梅ヶ谷の出身で第一五代横綱。なお、「道の駅原鶴」に隣接するサンライズ杷木には梅ヶ谷の銅像が建つ（写真⑤）。

